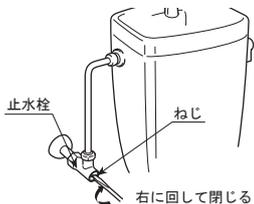


施工方法

1 古いボールタップの取外し

- (1) 止水栓のねじをマイナスドライバーで右に回して、給水を止めます。
※ 止水栓はタンクの左、または右にあります。

注意 1 参照



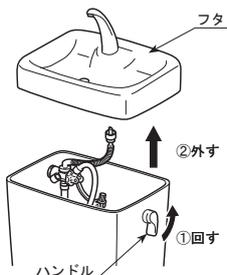
右に回して閉じる

- (2) タンクのハンドルを回して、タンク内の水を抜きます。

注意 2 参照

- (3) タンクフタを持ち上げて外し、安定した場所に置きます。

※ タンクフタを少し持ち上げ、手洗接続管 (白) がねじやクリップで接続されている場合は、ねじやクリップを外してからタンクフタを外してください。



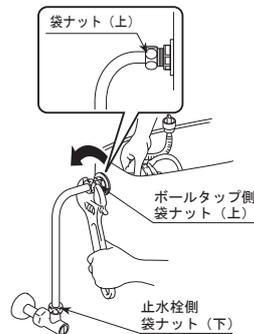
②外す

①回す

- (4) タンク外側横にあるボールタップ側の袋ナット (上) を、工具を使ってゆるめます。

※ このとき、少量の水がこぼれることがありますので、ぞうきん等を下に置いてください。

注意 3 参照

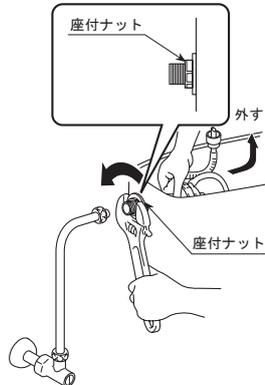


袋ナット(上)

ボールタップ側袋ナット(上)

止水栓側袋ナット(下)

- (5) タンク外側の座付ナットをゆるめて、古いボールタップを外します。



座付ナット

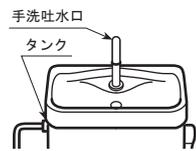
外す

座付ナット

2 新しい取替用ボールタップの準備

■ 手洗付の場合

新しい取替用ボールタップの取付準備をします。ご使用のタンクとボールタップの種類を確認してください。種類によって準備方法が異なります。



■ 補給水ホース (黒) がある場合

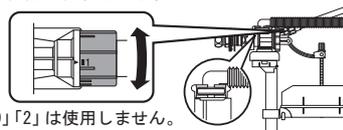


古いボールタップ

補給水ホース(黒)

ボールタップ

取替用ボールタップ上部の補給水切替ダイヤルを「1」の位置に合わせます。



※ 「0」「2」は使用しません。

■ 補給水ホース (黒) がない場合

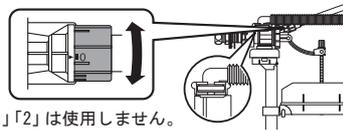


古いボールタップ

補給水ホース(黒)がない

ボールタップ

取替用ボールタップ上部の補給水切替ダイヤルを「0」の位置に合わせます。

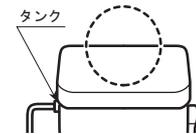


※ 「1」「2」は使用しません。

■ 手洗なしの場合

補給水切替ダイヤルの設定は、手洗付と同様です。

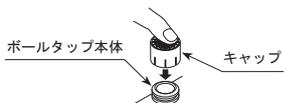
参考 1 参照



- (1) 取替用ボールタップ上部の手洗接続管 (白) をクリップごと外し、定流量弁を取り外します。(右図参照)

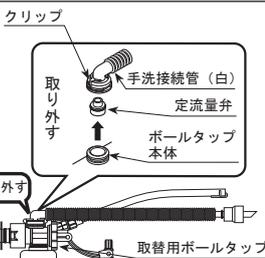
※ 定流量弁が外しにくい場合は、ラジオペンチ等でつまんで取り外してください。

- (2) 外した穴に同梱のキャップで栓をします。注意 5, 6 参照



ボールタップ本体

キャップ



クリップ

手洗接続管(白)

定流量弁

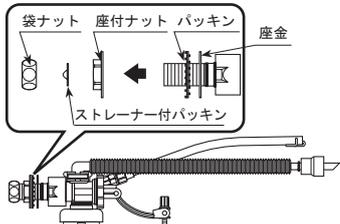
ボールタップ本体

取り外す

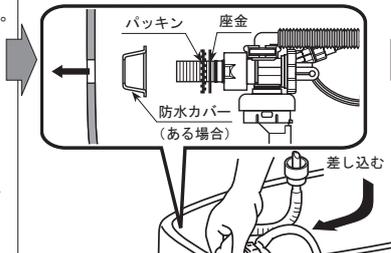
取替用ボールタップ

3 新しい取替用ボールタップの取付け (1)

- (1) 新しい取替用ボールタップから袋ナット、ストレーナー付パッキン、座付ナットを外します。
※ パッキン (黒) と座金は、差し込んだままにしてください。
※ 外した袋ナットは使用しません。
※ ストレーナー付パッキンは使用します。



- (2) 新しいボールタップに座金・パッキンを差し込んだ状態で、タンクの取付穴に内側から差し込みます。
※ 古いボールタップに防水カバーが付いている場合は、新しいボールタップ取付時にそのまま取り付けてください。



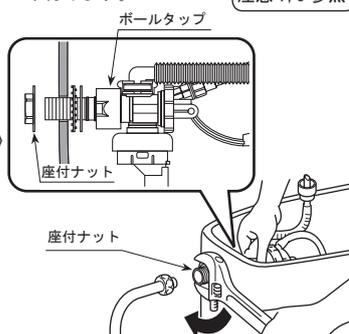
パッキン

座金

防水カバー(ある場合)

差し込む

- (3) ボールタップが傾かないようにして、タンクに垂直に外側から座付ナットで取り付けます。注意 7, 8 参照



ボールタップ

座付ナット

注意 1

このとき止水栓ねじの最初の位置を覚えておいてください。(何回転させたかメモしておいてください。)

止水栓は適切な水量に調節されているので、作業後に元に戻す必要があります。

注意 2

このときボールタップから水が出ないこと (以下の事) を確認してください。

- 手洗付の場合
手洗吐水口から水が出ない。
- 手洗なしの場合
タンク内で水音がしない。

注意 3

このとき止水栓側の袋ナット (下) をゆるめないでください。
※ ゆるめると漏水の恐れがあります。

参考 1

【補給水切替ダイヤルの設定】

- 「0」 - 補給水なし
※ 洗い落とし式
- 「1」 - 補給水あり (標準水量)
※ サイホン・サイホンゼット式
- 「2」 - 補給水あり (最大水量)
※ 便器溜水面が低下する場合

注意 4

手洗接続管の根本がクリップで、しっかり接続されていることを確認してください。



注意 5

キャップは奥までしっかりと差し込んでください。

※ 奥まで差し込まれていないと、外れて漏水の恐れがあります。



注意 6

キャップは一度取り付けると外れませんので、手洗なしであることを確認の上、取り付けてください。

注意 7

座付ナットは、ボールタップがぐらつかない程度に締め付けてください。

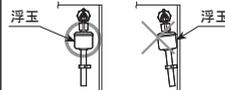
※ 締めすぎると、陶器 (タンク) が割れる恐れがあります。

注意 8

座付ナットの締め付け時には、ボールタップが回転しないように手で押さえながら締め付けてください。

※ 浮玉がタンク内壁やオーバーフロー管に干渉すると、作動不良になる場合があります。

必ず浮玉がスムーズに作動することを確認してください。横から見たボールタップの向き



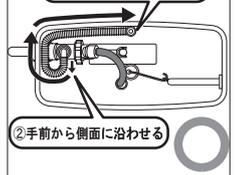
注意 9

手洗接続管はタンク背面に沿わせて、浮玉や調整ねじに被さらないように取り回してください。

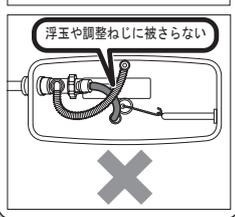
(手洗い接続管が手洗い接続部に届かない場合は、取り回しは不要です)

※ 浮玉や調整ねじに被さると、浮玉が正常な位置まで上がらずに水が止まらなくなる恐れがあります。

①タンク背面に沿わせる



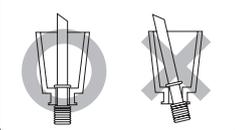
②手前から側面に沿わせる



浮玉や調整ねじに被さらない

注意 10

手洗接続管はホルダーに奥まで、まっすぐにしっかりと差し込んでください。



注意 11

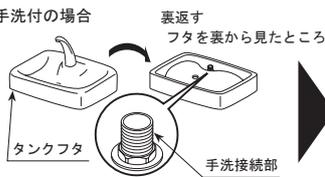
タンクフタがぐらつく場合は、手洗吐水口の接続が不十分ですから、再度差し込み直してください。

4

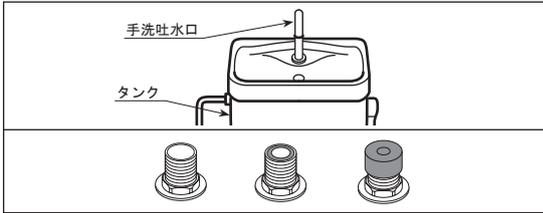
**【手洗付タンクの場合】
タンクの仮取り付け（傾斜パッキン必要性の確認）**

タンクにタンクフタを取り付けます。

ご使用のタンクと手洗付の場合はタンクフタの裏側を確認してください。種類によって取付方法が異なります。

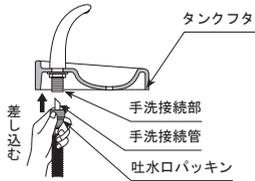


■ 手洗付でねじ接続、またはねじ接続+ゴムパッキンタイプの場合

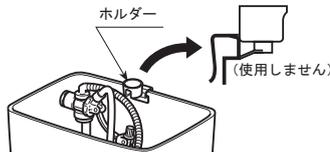


- (1) ゴムパッキン付の場合は、ゴムパッキンを外します。
 - (2) 吐水口パッキンを持ちながら、手洗接続管の先端を手洗接続部にしっかりと奥まで差し込みます。* 1
- ※ 差し込み後、軽く引っ張り、抜けないことを確認してください。

注意 9 参照



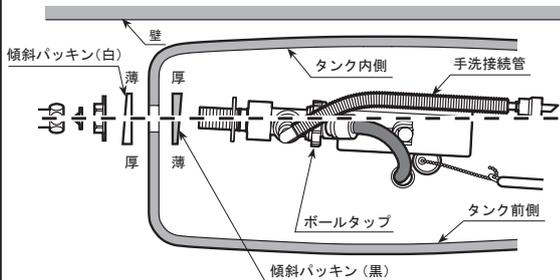
※ タンク内にホルダーが付いている場合は、使わないので取り外してください。



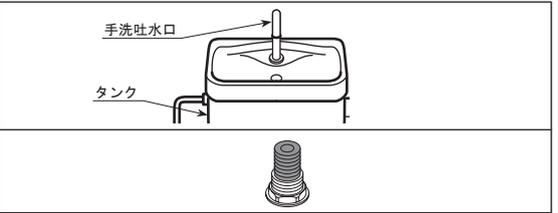
- (3) タンクフタをタンクに載せます。* 2
- (4) 注意事項を必ず確認後、タンクフタを取り外してください。

*** 1 タンク内側と手洗接続管が干渉する場合**

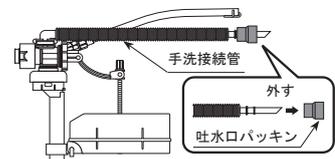
傾斜パッキンを下図のように付け、ボールタップがタンク前側に傾くように取り付けて下さい。
※ 取替用ボールタップに最初から付いているパッキンは外して下さい。
※ 傾斜パッキンの取り付け向きに注意して下さい。



■ 手洗付でゴム蛇腹付タイプの場合

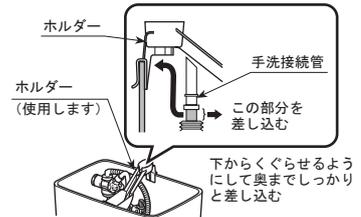


- (1) 手洗接続管先端の吐水口パッキンは、使わないので取り外します。



- (2) タンク内のホルダーに手洗接続管を取り付けます。* 1
- ※ ホルダーに取り付けた後、軽く引っ張り、外れないことを確認してください。

注意 9 参照

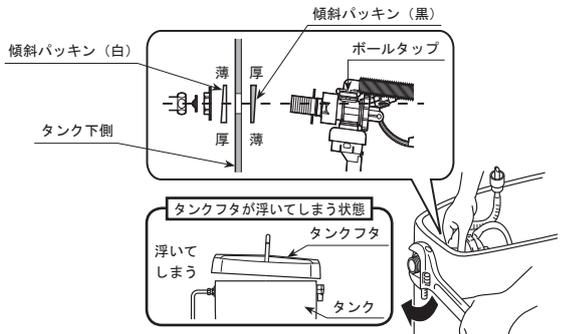


- (3) タンクフタ裏側のゴム蛇腹に手洗接続管の先端を差し込むようにして、タンクに載せます。* 2
- (4) 注意事項を必ず確認後、タンクフタを取り外してください。

注意 10, 11 参照

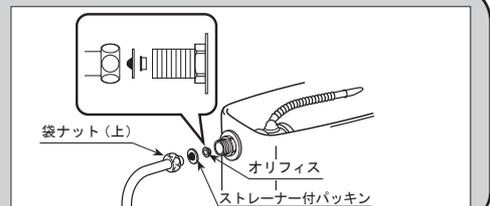
*** 2 タンクフタが浮いてしまう場合**

傾斜パッキンを下図のように付け、ボールタップがタンク下側に傾くように取り付けて下さい。
※ 取替用ボールタップに最初から付いているパッキンは外して下さい。
※ 傾斜パッキンの取り付け向きに注意して下さい。



【止水栓がない場合】

寒冷地では、止水栓がない場合があります。
● 給水を止めたり、開けたりする場合は、水道の元栓等で行ってください。
● 給水圧力が高く (0.2MPa 以上)、給水音が大きい場合には、同梱のオリフィスを右図のように取り付けてください。

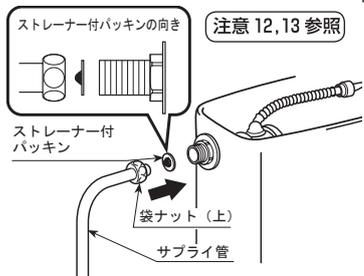


5 新しい取替用ボールタップの取付け (2)

(1) ストレーナー付パッキンをはさみ込み、ボールタップにサブライ管を袋ナット(上)で取り付けます。

※ 寒冷地の場合、前述の【止水栓がない場合】を確認してください。

※ TOTO タンクで専用ストレーナーとパッキンを使用している場合は、同梱の新しいストレーナー付パッキンを使用せず、そのまま元の専用ストレーナーとパッキンを使用してください。

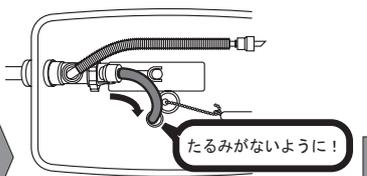


注意 12, 13 参照

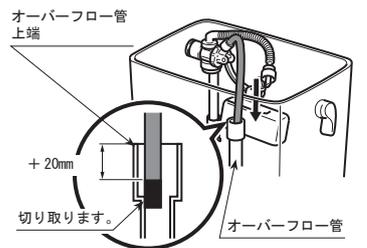
注意

サブライ管の接続は確実に行ってください。
※ 袋ナット(上)の締め付けが不十分指示実行ですと漏水の原因になります。

(2) 補給水ホース(黒)をオーバーフロー管に、たるみがないように差し込みます。

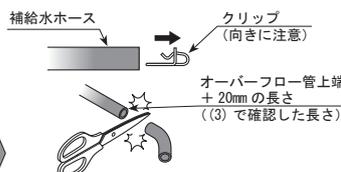


(3) たるみがある場合は、補給水ホースをたるみなく差し込んだ状態で、オーバーフロー管上端から 20mm 余裕を取った長さを確認します。



(4) 一旦、補給水ホースを抜いて、先端のクリップを外します。

※ (3) で確認した長さで、補給水ホースをはさみで切り取ります。



(5) クリップを元通り、補給水ホースの先端に取り付けます。

(6) オーバーフロー管に補給水ホースをクリップでしっかり取り付けます。

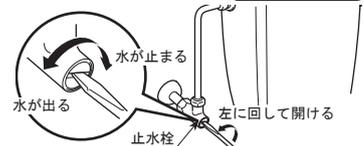


6 通水

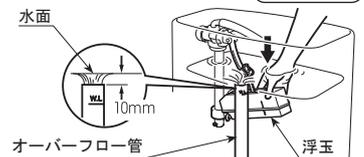
(1) 手洗付の場合は、手洗接続管の出口をタンク内の下に向けてください。注意 15 参照



(2) 止水栓のねじをドライバーで左に回してタンクへ通水します。注意 16, 17 参照



※ 止水栓ねじの位置がわからなくなった場合は、ボールタップの浮玉を押し下げ、水を出しっ放しにしたときに、水面がオーバーフロー管より 10mm 以上上昇しない程度に止水栓で流量を調節します。注意 18 参照



7 止水位の確認

水が止まったときに、タンク内の水位がオーバーフロー管の「W.L.」マークに合っていることを確認します。注意 19 参照



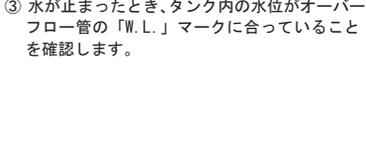
【水位が合っていない場合】

① 浮き玉の調節ねじをマイナスドライバーで回して、水位を調節します。



② タンクのハンドルを回して、便器洗浄します。(大洗浄、またはしばらくハンドルを回し続けて洗浄してください。)

③ 水が止まったとき、タンク内の水位がオーバーフロー管の「W.L.」マークに合っていることを確認します。



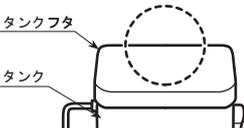
8 タンクフタの本取付け

【手洗付タンクの場合】

④ タンクの仮取付け(傾斜パッキン必要性の確認)に戻り再度タンクフタを取り付けてください。

【手洗なしタンクの場合】

タンクフタをタンクに載せます。

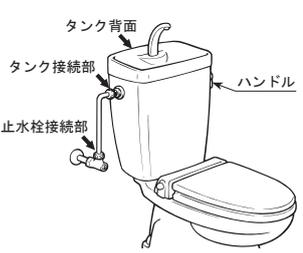


9 施工後の確認

(1) ハンドルを 2~3 回操作して、便器洗浄し、水が止まることを確認します。また手洗付の場合は、手洗吐水口から水が出ることを確認します。



(2) 接続部からの水漏れがないか確認します。



以上で、ボールタップの交換作業は完了です。

注意 12

ストレーナー付パッキンがはさまれていることを確認してください。

※ ストレーナー付パッキンがない場合、漏水する恐れがあります。

注意 13

袋ナット(上)が樹脂製の場合、締め過ぎによる破損に注意してください。

注意 14

必ずクリップでオーバーフロー管に取り付け、差し込みすぎないようにしてください。



注意 15

手洗接続管の出口は必ずタンク内の下に向けてください。

※ 上に向いていると、タンクの外に水が飛び出す恐れがあります。

注意 16

止水栓ねじをメモしておいた元の位置にしてください。

注意 17

手洗なしの場合は、キャップ付近から水漏れしていないことを確認してください。



水漏れがある場合は、①(2)の要領で止水栓にて流量を調節してください。

注意 18

10mm 以上上昇する流量だと、万が一ボールタップが故障した場合、床に水があふれる恐れがあります。

注意 19

水位が「W.L.」に合っていない場合は、調節ねじで水位を合わせてください。

※ 水位が合っていないと、水が止まらなかったり、便器に汚物が残りやすくなります。